

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ごーるでんえっく野幌		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの自主性・自発性を尊重した支援	子どもが自分で考え、選び、行動できるようにサポートする姿勢を大切にしています。無理に指示するのではなく、子どものペースや興味を尊重しながら関わることで、主体的な成長を引き出すことができます。	運動遊びを通して“経験の積み重ね”を大切にします。子どもが活動の中で多くの経験を重ねられるよう、一つひとつの運動遊びに意味を持たせています。成功体験だけでなく、試行錯誤や挑戦のプロセスも大切に、人としての成長につながる関わりを意識しています。
2	楽しく・明るく・元気に過ごせる環境づくり	子どもたちが安心してのびのびと過ごせる、明るく温かい雰囲気の中で活動を行っています。楽しい時間を共有することで、子どもの意欲や社会性が自然と育まれます。	明るく安心できる雰囲気づくりを大切にしています。子どもが心から安心できる環境を整え、自分らしくいられる“居場所”となることを目指しています。安心感があるからこそ、挑戦する力や自発性が育ちます。
3	成長につながる関わりと経験の提供	日々の遊びや活動を通して、成功体験や挑戦の機会を多く提供しています。楽しさの中に学びがあり、子ども自身が「できた」「やってみたい」と感じられる環境が整っています。	一人ひとりの人間性の成長に目を向けています。運動能力だけでなく、気持ちの動き、考え方、他者との関わり方など、子どもの“人間性”に寄り添った支援を行います。「できる・できない」ではなく、その子らしさや成長の芽を見つけて育てることを大切にしています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時や感染症発生時の対応について、保護者への情報提供や周知が十分でない状況があります。必要な情報が迅速かつ確実に伝わるよう、連絡手段や発信内容の見直しが求められています。	防災への取り組みや緊急時の対応は作成していますが、契約時の説明に留まっています。周知の機会が不足しています。	緊急時や感染症発生時の連絡方法（電話・メール・連絡帳・アプリ等）を明確にし、保護者へ周知する必要があります。定期的な情報提供の実施として感染症流行期や季節の変わり目に合わせて、注意喚起や対応方法を定期的に発信したり、掲示するなど複数の方法で周知方法を強化。
2	地域とのつながりや、保護者同士が交流できる機会の提供が十分ではありません。子ども同士・家庭同士・地域との関わりを深める場が少ないため、コミュニティ形成や相互理解の促進に課題があります。	利用児と地域との交流会や保護者同士の交流会については、現状では人員体制や時間的な制約から実施が難しい状況にあります。保護者のニーズの把握も不足しています。	交流会や父母会等の実施は現状では難しいため、日常の活動や情報発信を通して、保護者や地域とのつながりを感じられる工夫を進めていきます。無理のない範囲で小規模な交流の可能性も検討していきます。
3			